

【主催】 わけっこパーク

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【後援】 和気町 / 和気町教育委員会

【協力】 滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室 / 公益財団法人リバーフロント研究所

「小さな自然再生」現地研修会（第18回）開催報告

2023年9月24日（日）岡山県和気町・日笠川



開会



日笠川での実践



生きもの・水質観察



日笠川の未来を考える会



日本河川・流域再生ネットワーク

2024年1月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

「小さな自然再生」現地研修会（第18回）

開催報告

2023年9月24日（日）岡山県和気町・吉井川流域日笠川

はじめに

岡山県和気町を流れる吉井川流域日笠川において、「100年後も生きものいっぱい！！日笠川」をテーマに、「小さな自然再生」の手法や地元の川との関りの歴史を専門家や先達から学び、子どもも大人も行政も、川に関わる全ての人がこれから実践できる小さな自然再生活動についてアイデアを交換することを目的に、2023年9月24日（日）に「小さな自然再生」現地研修会を開催しました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様に厚く御礼申し上げます。

2024年1月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

開催概要

- 開催日時： 2023年9月24日（日） 9:00～16:00
- 開催場所： 岡山県和気町 <座学：日笠地区公民館／現地：日笠川（座学会場前）>
- 参加者： 約80名
- 主催： わけっこパーク／「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク
- 後援： 和気町／和気町教育委員会
- 協力： 滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室／公益財団法人リバーフロント研究所

プログラム

(9:00～10:00) 小さな自然再生のウォーミングアップ座学研修 @日笠地区公民館

- 開会挨拶（熱田尚子：わけっこパーク）
- 日笠川の自然環境（白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所）
- 小さな自然再生のすすめ（三橋弘宗：兵庫県立人と自然の博物館）

(10:00-13:00) 小さな自然再生の実践 @座学会場前の日笠川

- 日笠川で持続的に取り組むことができる小さな自然再生のノウハウを楽しみながら見直し
& 日笠川の生きものや水質観察

■現地指導講師：

瀧健太郎（滋賀県立大学環境科学部）、三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）

(13:00～14:00) 昼食

(14:00～16:00) 日笠川の未来を考える座学研修 @日笠地区公民館

- 地元の先達より日笠川の昔のお話を伺いながら、日笠川の未来について参加者とともに語り合いました。

(16:00) 閉会

開会挨拶



主催・共催者を代表して、わけっこパーク・熱田尚子さんより、今回の開催経緯を含む研修会の趣旨説明を行いました。

小さな自然再生のウォーミングアップ座学研修（午前）



日笠川の水生生物と河川環境保全

(白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所)

- 日笠川の環境の特性
- 日笠川に残る河道内氾濫原環境とは
- 日笠川で見られる生きもの
- 日笠川でできる環境改善

落差解消による水生生物の移動経路の回復（上下流、本川と用水路）、平坦河床部における多様な流れ場の創出（バープ工）、湧水箇所の発見と水域の確保、外来種の除去による在来生態系の改善 etc.



小さな自然再生のすすめ

(三橋弘宗：兵庫県立 人と自然の博物館)

- 河川環境の見方、河川環境を考える視点
- 河川環境をとりまく課題
- 小さな自然再生のすすめ ～小さな技術でできることはたくさんある～

小さな自然再生の実践（午前）

座学で学んだ日笠川の特徴や小さな自然再生に取り組む際の視点を踏まえ、座学研修会場前を流れる日笠川をフィールドに、バープ工による多様な流れの場づくり、落差を解消する手づくり魚道づくり、日笠川の生物観察と水質検査などに取組み、親子でできる小さな自然再生の取組みについて学び合いました。





参加者は好きな場所で好きな活動を体験

【多様な流れ創出するバープエづくり】



石を集めてバープエを設置し、水際は緩やかな流れを、先端部（流心部）は早い流速を創出

【落差を解消する手づくり魚道づくり】



巨石や生分解性土嚢に礫を詰め込んで参加者で運搬



落差を解消する簡易魚道が完成。河川プールとして子どもたちの遊び場にも。

※研修会終了後は解体して現況復帰しています

【三橋弘宗先生の生物&水質観察教室】





パックテストで日笠川の水質環境を学ぶ

日笠川の未来を考える座学研修（午後）

午前の座学と実践を通じて学んだ日笠川でできそうな小さな自然再生の取組みを踏まえ、わけっこパーク・有正あかねさんの進行で、日笠川の未来について参加者とともに語り合いました。



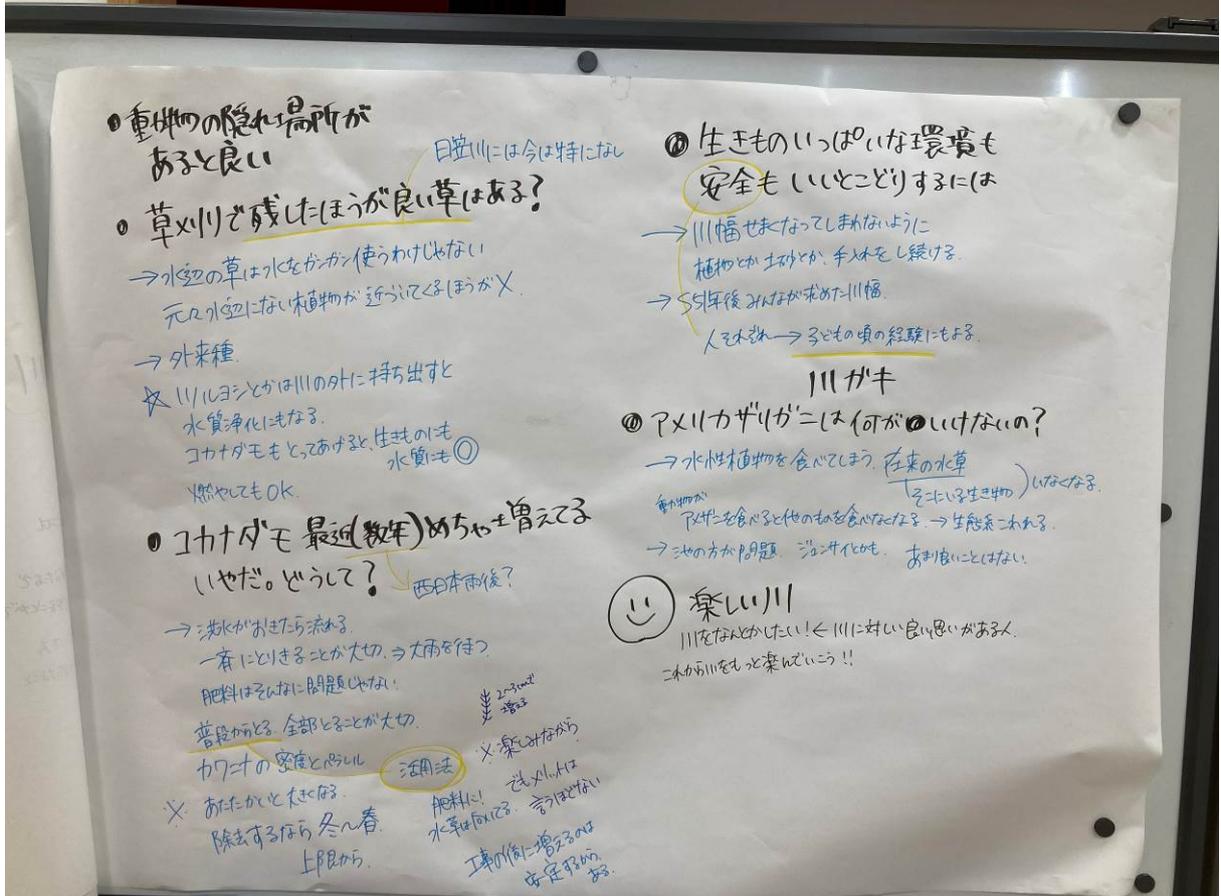
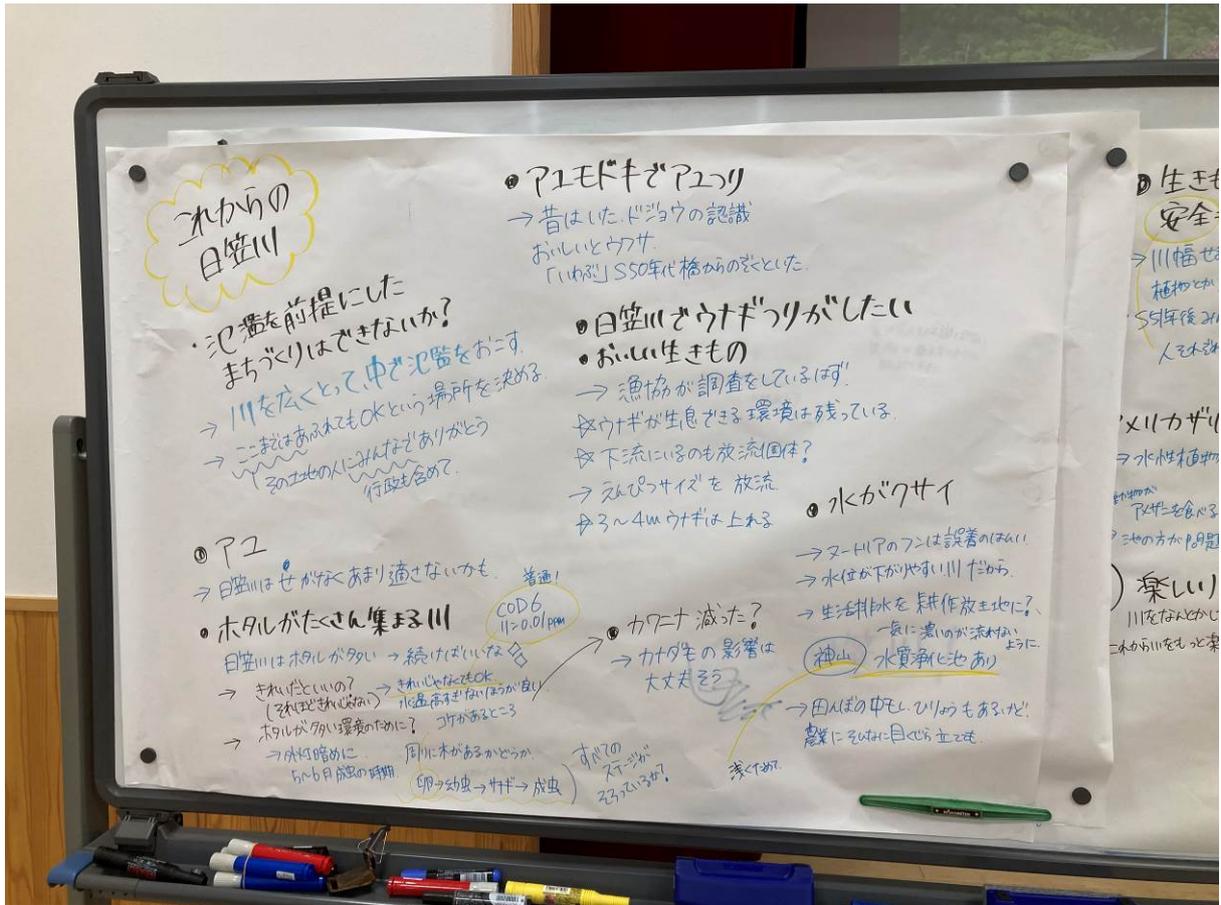
滋賀県立大学瀧研究室・井上祐貴さんよりドローンで撮影した湧水地点を解説



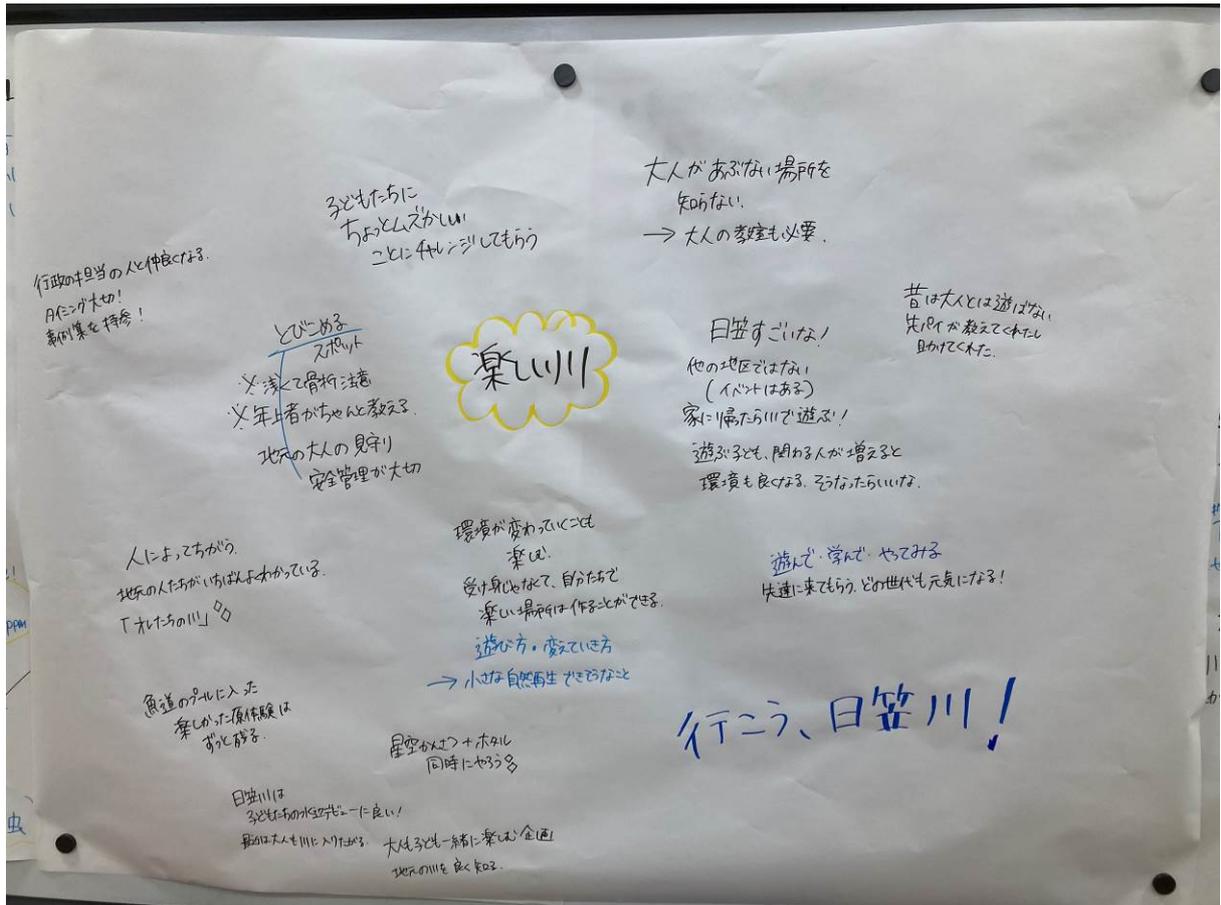
夏祭り及び研修会当日に頂いた日笠川の昔と今についてのコメントを紹介



日笠川のこれからについて参加者と意見交換



日笠川のこれからのアイデア



研修会場内の展示







参考資料 1 – 参加者募集チラシ（表面）



【開催趣旨】 私たちの生活を支えてくれる川や山。時代とともに日笠川もどんどん変容しています。流域治水をはじめ、川本来の力を取り戻し、多種多様な生きものと共生するために、ひとりひとりができることは何でしょうか。日笠川を囲み「小さな自然再生」の手法や歴史を専門家や地元の先達から学び、子どもも大人も行政も、川に関わる全ての人々が実践できることを模索します。それぞれが思い描く地元の川の形を再発見できる場を作りましょう。

開催日時	令和5年9月24日(日) 9:00~16:00
会場	岡山県和気町 <座学: 日笠地区公民館 / 現地: 日笠川(座学会場前)>
対象	小さな自然再生に関心のある方々 ※本研修会は、子どもたちとの川遊びやイベント等をお考えの大人向けのプログラムとなっています。
定員	30名程度(先着順) ※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。
参加費	無料
持ち物	川の中で滑らない靴(アクアシューズ、鮎たび等)、作業用手袋、昼食
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

(9:00~10:00) 小さな自然再生のウォーミングアップ座学研修 @日笠地区公民館

- 開会挨拶
- 日笠川の自然環境(白尾豪宏: 公益財団法人リバーフロント研究所)
- 小さな自然再生でできること(瀧健太郎・三橋弘宗・和田彰: 「小さな自然再生」研究会)

(10:00-13:00) 小さな自然再生の実践 @座学会場前の日笠川

- 日笠川で持続的に取り組むことができる小さな自然再生のノウハウを楽しみながら見直し & 日笠川の生きもの観察
■現地指導講師: 瀧健太郎(滋賀県立大学環境科学部)、三橋弘宗(兵庫県立 人と自然の博物館)

(13:00~14:00) 昼食

(14:00~16:00) 日笠川の未来を考える座学研修 @日笠地区公民館

- 地元の先達より日笠川の昔のお話を伺いながら、日笠川の未来について参加者とともに語り合います。

(16:00) 閉会



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: わけっこパーク、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
後援: 和気町、和気町教育委員会
協力: 滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室、公益財団法人リバーフロント研究所

研修会のお知らせ

水辺の小さな自然再生現地研修会

～100年後も生き物いっぱい！！日笠川～

開催：2023年9月24日(日) ① 9時-13時 ②14時-16時頃

場所：日笠地区館

内容：①小さな自然再生の実践（日笠川）②座学研修（地区館集会室）

対象：日笠川流域の方、水辺の小さな自然再生に関心のある方

参加費：無料

申込み：info@wakekkopark.jp（有正、熱田）

①のみ／②のみ／①②両方／の何れかをお知らせ下さい

定員：30名程度（先着順）

私たちの生活を支えてくれる川や山。時代とともに日笠川もどんどん変容しています。流域治水はじめ、川本来の力を取り戻し、多種多様な生きものと共生するために、ひとりひとりができることは何でしょうか。日笠川を囲み「小さな自然再生」の手法や歴史を専門家や先達から学び、子どもも大人も行政も、川に関わる全ての人が実践できることを模索します。それぞれが思い描く地元の川の形を再発見できる場をつくりましょう。

講師紹介

瀧健太郎 先生（滋賀県立大学 環境科学部）

三橋弘宗 先生（兵庫県立 人と自然の博物館）

川が川ので回復する手助けができる人を増やすため、自然体験で終わらない、持続的に取り組むことができる自然再生のノウハウを優しく楽しく教えてください。

わけっこパークは「子どもたち、里山で思いきり遊ぼう」をテーマに2018年に地元ママたちで立ち上げた任意団体です。



この事業は、第18回「小さな自然再生」現地研修会として行われます。

共催：わけっこパーク／「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

後援：和気町／和気町教育委員会

協力：滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室／公益財団法人リバーフロント研究所

参考資料3 - わけっこパーク 研修会報告資料

水辺の「小さな自然再生」現地研修会開催報告

2023年9月24日（日）日笠地区公民館と公民館横を流れる日笠川にて、水辺の「小さな自然再生」現地研修会が開催されました。毎年全国数カ所で開催されているこの研修会。今年の開催地の一つとして和気町日笠川を選んで頂きました。

プログラム

9:00～10:00 小さな自然再生のウォーミングアップ座学研修@日笠地区公民館

- 開会挨拶
- 日笠川の自然環境（白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所）
- 小さな自然再生のすすめ（三橋弘宗：「小さな自然再生」研究会）

10:00～13:00 小さな自然再生の実践@日笠川

- 日笠川で持続的に取り組むことのできる小さな自然再生のノウハウを楽しみながら見直し&日笠川の生きもの観察
- 現地指導講師：瀧健太郎（滋賀県立大学 環境科学部）
- 三橋弘宗（兵庫県立 人と自然の博物館）

13:00～14:00 昼食

14:00～16:00 日笠川の未来を考える座学研修@日笠地区公民館

- 地元の方より日笠川の昔のお話を伺いながら、日笠川の未来について参加者とともに語り合い。
- 16:00 閉会



共催：わけっこパーク、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
 後援：和気町、和気町教育委員会
 協力：滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室、公益財団法人リバーフロント研究所



定員を大幅に上回る80名以上の参加者で日笠川が賑わいました。会場となった日笠地区公民館では、日笠川の写真や川に関する本を並べて参加者の皆さんをお迎えしました。また、日笠川の生きものも水槽で展示しました。



「日笠川の水生生物と河川環境保全」



「小さな自然再生のすすめ」

まずは座学です。リバーフロント研究所の白尾さんから、地形から見た日笠川の河川環境の特徴や、生きものについてのお話がありました。日笠川は流域の出口が狭くて水位が上がりやすい川。そのため、田んぼのための水の確保や、流速低減のために昔からたくさんの堰を設置してきた歴史があります。そしてたくさんの構造物で縦も横も分断されていて、多くの生きものたちにとっては厳しい環境であるにも関わらず、日笠川には河道内に氾濫原があることで、とても生物相が豊かであるということも教えて頂きました。ここで持続的にできる環境改善や、公共工事の方法の提案など、他の地域の事例も交えながらお話しして頂きました。

兵庫県立人と自然の博物館の三橋先生からは「小さな自然再生のすすめ」として、様々な地域で行われてきた小さな自然再生のお話を頂きました。どのような取り組みで、実践した地域ではどんな変化が生まれるのか。あきらめず、無関心にならず、自分たちの手で、できることから始めることの大切さ。少ない予算で、誰でもできる手法で成果を出して、地域住民にとっても行政にとってもプラスになる動き。自分もやってみよう！と聞いていた参加者みんながワクワクしてくるようなお話でした。



いよいよ川で実践です！



たくさん生きものを観察できました



外来種のココナダモを陸に上げます



バープ工で流れを変え、瀬や淵をつくります



三橋先生の生きもの解説&水質調査

ウォーミングアップ座学研修の後は、川で実践です。町外・県外から参加された方々からは「どうしてこんなにいろんな生きものがいるの？」と嬉しい驚きの声も聞こえてきました。近年日笠川でも急激に増えているという外来種のココナダモもどんどん陸に上げられていきました。石を並べて「バープ工」も作りしました。バープを設置することで、流れの緩急ができます。緩やかなところは稚魚の居場所になり、また増水時にはたくさん魚の隠れ場所にもなります。上空にはドローンも飛び、湧水も確認できました。

瀧先生の指導の元、魚が上れずに溜まっている堰に魚道を設置しました。魚道といっても滑り台のような坂道をつけるのではなく、上れるところを探して壁沿いにやってきた魚たちが、緩やかに上っていけるプールのようにしています。完成後すぐに中に魚が入っていることが確認されました。元々川にある石と砂と、万が一一流されてしまっても分解される土嚢袋によって作られました。増水時にも下流には影響がないこととお墨付きですが、河川管理者の許可を得られていないため当日撤去しました。後日再挑戦です！



「小さな自然再生」とは、次のような条件を満たす活動です。

- (1) 自己調達できる資金規模であること
- (2) 多様な主体による参画と協働が可能であること
- (3) 修復と撤去が容易であること

子どもからお年寄りまで誰もが気軽に参加し、費用が安価で、そして時には失敗をしながらも活動の効果が短期間で実感できる、そんな地域による取り組みです。今回実践してみて、本当に自分たちの手で「いい川」をつくることはできるのだと実感しました。

午後は再び公民館に集まり、日笠川の未来を考えました。まずはこの研修会までに地元の方々にヒアリングさせて頂いた内容を共有し、会場に来てくださった地元の先輩方にこれまでの日笠川のお話を聞かせてもらいました。昔はウナギもアユもいて、とって食べることができたこと。飛び込めるくらい深い淵があったこと。魚道を作ろうと議員さんとお話したこと。大切にされ、親しまれてきたことが伝わってきました。昭和51年の台風での被害についても学ぶことができました。

これから日笠川をどんな川にしていきたい？どんなことをしたい？という未来の話では、とても積極的な意見交換が行われました。水質のこと、安全のこと、住民ができる川や河原の手入れのこと、ウナギやアユが戻ってくるには？虫を守るには？どんな企画ができる？等、様々な質問や提案がされ、講師の先生方や参加者みんなで考えていきました。川を大切にしたいという思いは、川で楽しい経験をして生まれるのではという話から、「楽しい川」ってどんな川だろう？という話に発展していきました。



日笠川を深く知り、小さな自然再生手法を知り、ワクワクがたくさん生まれた、学び多き一日となりました。

「できることから始めよう！」を合言葉に、これからも日笠川を楽しみ、大切にしていきます。

行こう、日笠川！

(わけっこパーク 熱田)

参考資料 4－わけっこパークによる研修会後の活動報告

現地研修会ではみんなで川に関わっていく素敵なきっかけを頂きました。

研修会が終わってからも、専門家のみなさんがいろんな面で支え続けてくださることが本当に心強く、また研修会を通して出会えた各地の水辺の小さな自然再生の先輩方にも応援して頂き、じわじわと仲間を増やしながら、地元のみなさんのご協力のもと、コツコツ、楽しく、見直しを続けることができます。

次にできることとして、まずは「ワンドを作るといいよ」とアドバイスを頂いていた日笠地区公民館の横のあたりから作業を始めることにしました。



草刈りをしていると、通りかかった地元の方々に声をかけてもらえました。

「魚の居場所をつくろうと思っています」とお伝えすると、「そりゃあええなあ！」と応援して頂きました。昔はもっと深くて、石垣に魚がたくさんいて、アユもウナギもいたことなどを、懐かしそうにお話してくれました。



湧水があり少し深くなっているところのクレソンを取り除き、本川とつないでみました。



生きものの避難場所や産卵場所になってくれることを期待して、お手入れや観察を続けます。



冠水頻度の違うワンドもつくってみます。子どもたちと一緒に、ヤナギの下を掘ってみました。どこをどんな風に掘ってみるのか、その後どういう観察をしていけばいいのかということについてもプロの目でアドバイスをして頂けて、みんなで学びながら取り組んでいます。



公民館よりも少し下流のこちらの場所は、土砂を取り除く工事が昨年末に終わったばかり。次はここで「小さな自然再生」を全力でやってみよう！と盛り上がっています。



「小さな自然再生」現地研修会（第18回）開催報告

～ 2023年9月24日（日）岡山県和気町・日笠川 ～

2024年1月27日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。